



# フクシマ 地域医療 いのち

公開シンポジウム  
&  
ミニコンサート

**2014年5月25日(日) 13:00~16:30**

●開場12:00~(※会場内で飲食はできません)

○1部:公開シンポジウム 13:00~15:00

講師/遠藤 清次 (医師、絆診療所院長・福島県南相馬市鹿島区 仮診療所)

今田 剛 (医師、小川医院理事・福島県耶麻郡猪苗代町)

今田 かおる (医師、小川医院理事・福島県耶麻郡猪苗代町)

座長/佐藤 健 (医師、豊橋医療センター緩和ケア部長・豊橋市飯村町)

○2部:ミニコンサート 15:15~16:15

会場:穂の国とよはし芸術劇場プラット・アートスペース

豊橋市西小田原町123番地 TEL(0532)39-8810 ※豊橋駅南口より徒歩3分

参加費:無料(整理券配布) 定員:260名

# フクシマ 地域医療 いのち



●2012年9月25日寄贈された少女像と  
(右から)遠藤さん、近藤さん、堀田さん

福島県南相馬市の「絆診療所」に豊橋ホスピスを考える会から木彫りの少女像(近藤泰人氏作・本会会員)が贈られた。絆診療所は東日本大震災後に南相馬市立小高病院長を退職した遠藤清次さんが避難生活を送る同市小高区の声に応え2012年5月に開所。

遠藤さんは絆診療所を開所するまで猪苗代町立病院に勤務。小川医院の医師今田剛さん、かおるさん夫妻と交流を深めた。

今田さんは「会津生と死を考える会」会員で、親交のあった豊橋ホスピスを考える会の堀田智弘事務局長から、福島県の人々に元気を届けたいと少女像の寄贈を申し込まれ、被災地の最前線で医療活動続ける遠藤さんを紹介。遠藤さんは「少女がハトを見上げる姿に希望や願いを感じる。先が見えない避難生活を送る患者さんに前を向く気持ちが伝われば」と感謝していた。

[ 2012.9.26 福島民報社新聞記事より抜粋 ]

福島県南相馬市鹿島区・絆診療所院長

**遠藤 清次**  
えんどう せいじ

## 3.11の東日本大震災と 福島第一原発事故の 過酷な状況下で 一人の犠牲者も出さずに 患者らを避難させた 元南相馬市立小高病院 元病院長の壮絶な体験。

### ■プロフィール

福島県立医大卒業、福島県立医大の第二外科出身。福島県南相馬市鹿島区、絆診療所院長。

震災後、福島県猪苗代町立病院に勤務。2012年の5月南相馬市鹿島区の仮設店舗に「絆診療所」を開設し、現在に至る。

絆診療所開設のきっかけは、仮設住宅に入居している住民から「戻ってほしい」と再三の要請を受けたことによる。

遠藤医師は「仮設住宅の孤立死を防ぎ、健康を守るきっかけになれば」と南相馬市への帰還を決めた。

そして、南相馬市鹿島商工会のあっせんで仮設店舗内に診療所を開設。多くの人の絆で開業できたことに感謝し「絆診療所」と命名した。

診療所の看板は、長野県の諏訪中央病院の名誉院長を務める鎌田実さんの書による。

福島県猪苗代町・小川医院理事

**今田 剛**  
こんた つよし

### ■プロフィール

杏林大学医学部卒業。山形大学医学部大学院博士課程修了。循環器専門医、総合内科専門医、漢方専門医、米国内科学会フェロー。

オーストラリアの病院で3年間冠動脈形成術を中心とした観血的心臓病治療に従事。滞豪中不思議な人達と出会い、自らの体験から補完代替医療の重要性に気づく。

現在、(財)竹田総合病院内科非常勤、小川医院理事、(有)自然医療センター代表取締役。完全治癒に導く医療に強い興味を持つ。

福島県猪苗代町・小川医院理事

**今田 かおる**  
こんた かおる

### ■プロフィール

杏林大学医学部卒業。小川医院理事、在宅支援診療所、在宅ホスピス医、敬愛訪問看護ステーション理事、特老いなわしろホーム嘱託医。

2013年ベラルーシ医学アカデミーで1週間の医師研修「チェルノブイリ放射線障害による甲状腺がんの増加」を学ぶ。2014年ドイツでの国際会議『原発事故がもたらす自然界と人体への影響について』当時の経験を医師として語った。

事故後、福島県民健康調査の甲状腺超音波検査の認定医師となる。

豊橋医療センター緩和ケア部長

**佐藤 健**  
さとう つよし

## ホスピスは もう一つのあなたの家

### ■プロフィール

名古屋大学医学部卒、医学博士。国立病院機構豊橋医療センター緩和ケア部長、豊橋ホスピスを考える会会長、生と死を考える会全国協議会副会長、東海緩和医療研究会世話人代表。

外科医として癌治療及び末期癌の症状コントロールに取り組み、1996年より地域市民団体の豊橋ホスピスを考える会の運営に参加。

会主催の市民向け講演会の企画運営及び講師を担当。地元医師会、歯科医師会などの医療関係、学校関係、商工業者等にホスピス・緩和ケアに関する講演を行い、地域の啓発活動に取り組んでいる。

また豊橋のホスピス運動の成果として、2005年に竣工された国立病院機構豊橋医療センターに24床の緩和ケア病棟が併設。外科診療と共に、緩和ケア病棟を担当し多くの癌患者さんの診療にあたる。

現在、医療センター緩和ケア病棟は取扱い患者数からも日本有数のホスピスとして発展している。

### 【著書のご案内】

- 「緩和ケアでがんと共に生きる」  
※2008年新潮社より刊行
- 新潮文庫「ホスピスという希望」  
※2014年5月刊行予定

## 豊橋ホスピスを考える会・20年の歩み

- 1994年 豊橋ホスピスを考える会発足  
ホスピスボランティア育成や緩和ケア病棟設置に尽力
- 2004年 生と死を考える会全国協議会 全国大会in豊橋を主催
- 2009年 第33回死の臨床研究会 全国大会で  
佐藤会長が大会長、会員が運営実行委員として参加し尽力
- 2014年 生と死を考える会全国協議会 全国大会in豊橋を主催

## 豊橋ホスピスを考える会の目的と活動

豊橋ホスピスを考える会は「生と死を考える会全国協議会」に所属し、協議会の目的である「死への準備教育」「ホスピス運動」「遺族の悲嘆のケア」のなかでも特に「ホスピス運動」を中心に活動をしています。

会 長：佐藤健(国立病院機構 豊橋医療センター緩和ケア部長)

事務局：堀田智弘(松葉治療室・鍼灸指圧マッサージ師・愛知大学非常勤講師)

活 動：◎市民のためのがんの緩和医療定期公開学習会の開催(年5回)

◎豊橋医療センターでのホスピスボランティアの活動援助、補助

## 「生と死を考える会全国協議会 全国大会in豊橋」のご案内

### 「ホスピスと共にささえあう街」

日 時：2014年10月25日(土)・26日(日)

場 所：穂の国とよはし芸術劇場プラット

参加費：2,000円(2日間通し券)

※講演、シンポジウム、岡村昭彦写真展、音楽演奏、各種分科会等を予定

### 【講演・シンポジウムの講師ご紹介】

- 柳田邦男(ノンフィクション作家、医療ドキュメントや評論等を多く執筆)
- アルフォンス・デーケン(上智大学名誉教授、「心を癒す言葉の花束」等著作)
- 高木慶子(上智大学グリーンケア研究所特任所長・教授、「悲しんでいい」等著作)
- 米沢慧(評論家、AKIHIKOの会、「自然死の道」等ホスピス関連著作多数)
- 細野容子(元岐阜大学医学部看護学科教授)
- 佐藤健(豊橋医療センター緩和ケア部長、「緩和ケアでがんと共に生きる」著作)

豊橋ホスピスを考える会事務局 (mail@matuba89.jp)

豊橋市三輪町1-56 松葉治療室・堀田 TEL(0532)62-3889 FAX(0532)62-7989